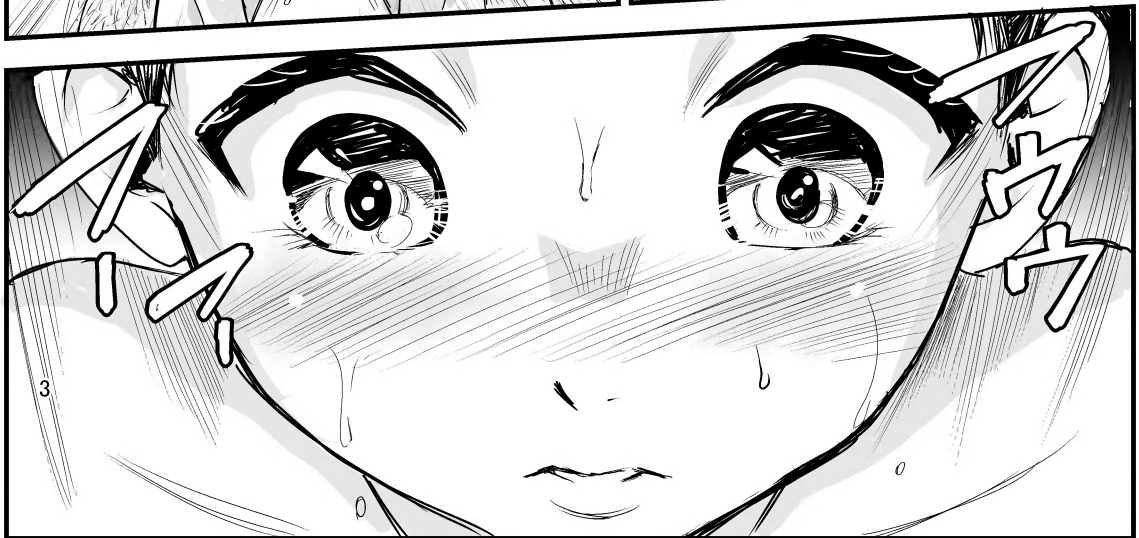
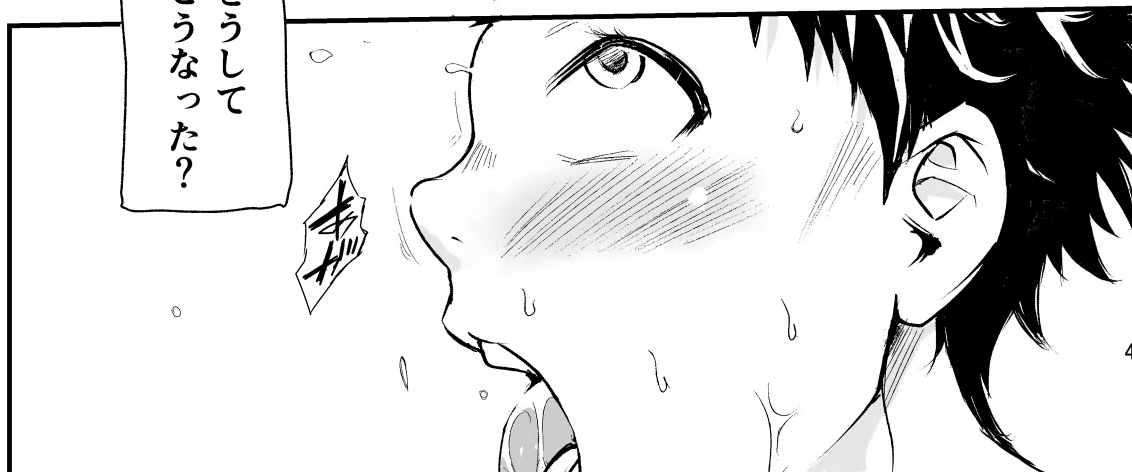
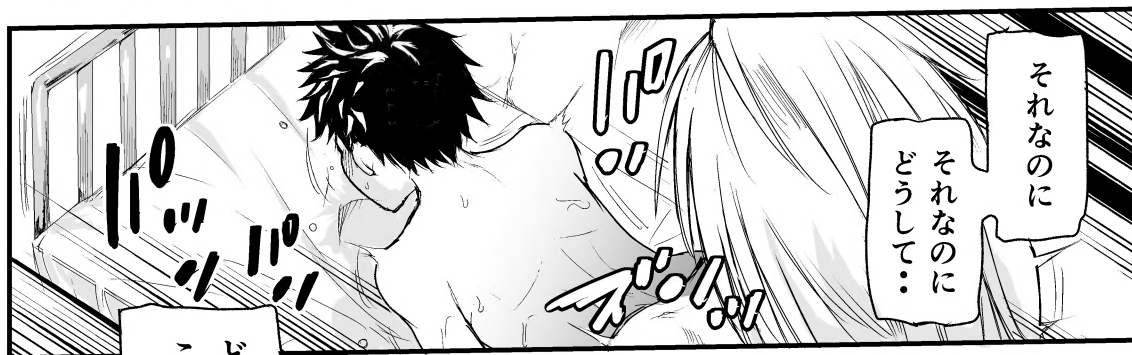
成人向
18歳未満
購入不可
艶がり村
［つやがりむら］
六
レイドソックス
トリッキー

パンッ
フゥッ
フゥッ

俺は桐ケ谷直人
よく中学生に
間違われる
高校生・・・
ザ
それ故よく
同級生になめ
られもする・・・
でも探求心なら
人一倍誇れる
いわゆる
秘境オタクって
やつだ
恋人のアヤミと
山奥のこの艶がり
村を探索に来た
のは他でもない
未開の謎の多い
この村は・・
俺の探究心を
刺激してやま
なかったからだ
ワク
ワク
それなのに
それなのに
どうして・・
パ
パッツ
ズ
どうして
こうなった?

俺のケツはこの薄汚いおっさんのオナホにされる毎日…
アヤミのことを考えることで理性をギリギリ保っている状況だ
1週間前

おい！
どうしたんだよアヤミ！
開けてくれ！
こんなとこに隠れてもまた奴らに捕まるぞ⁉
この村の教祖はお前の身体が目当て…

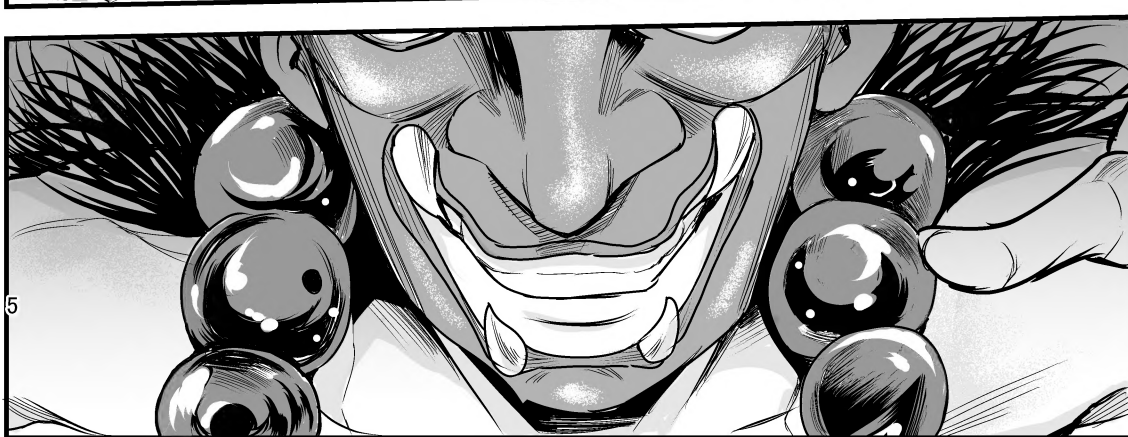
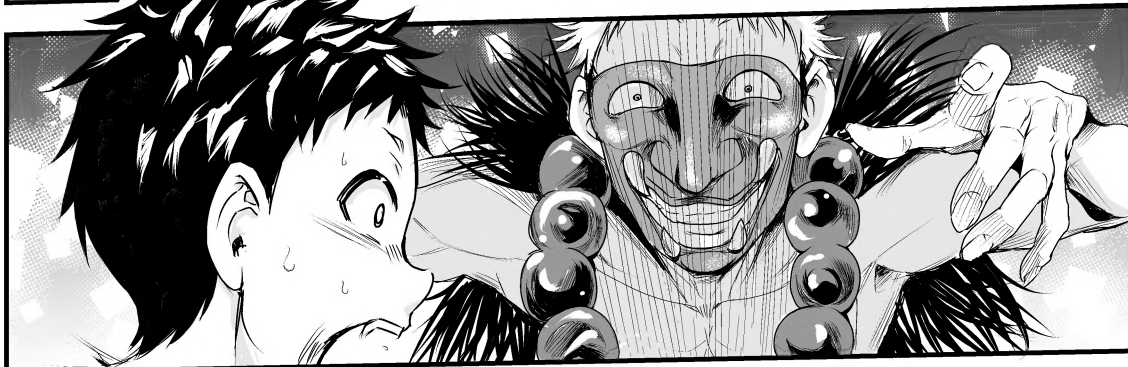
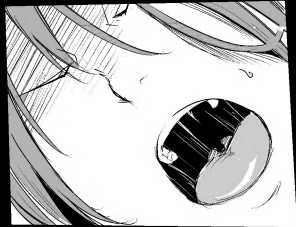
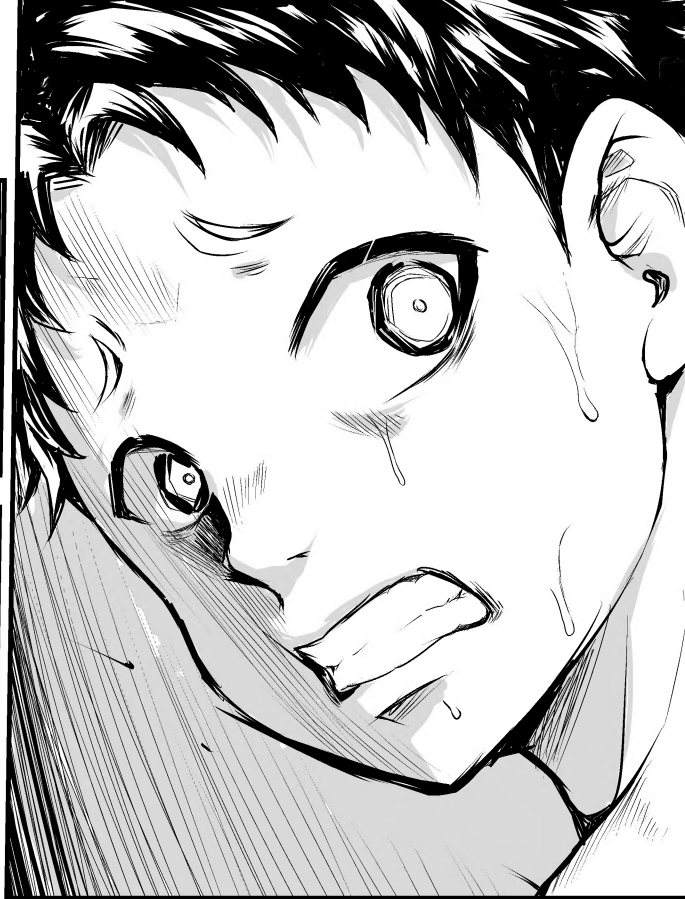
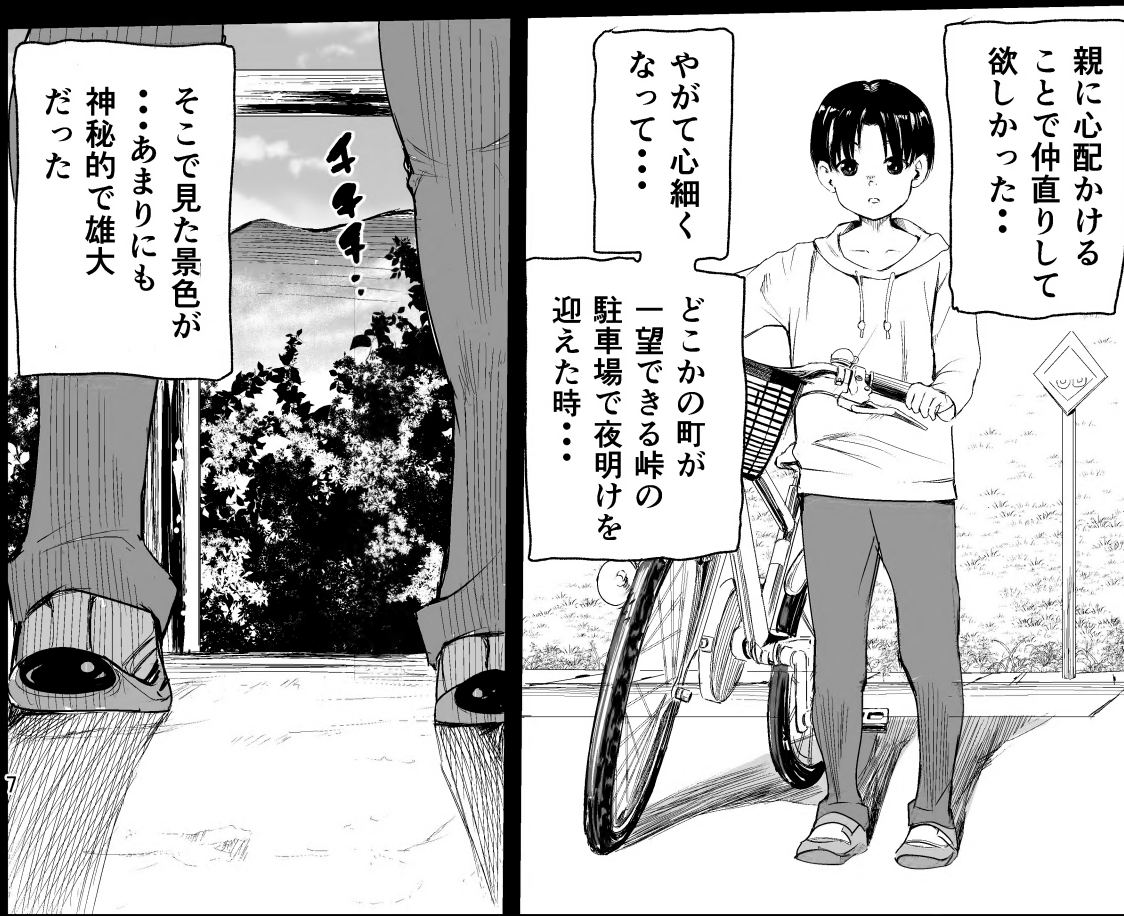
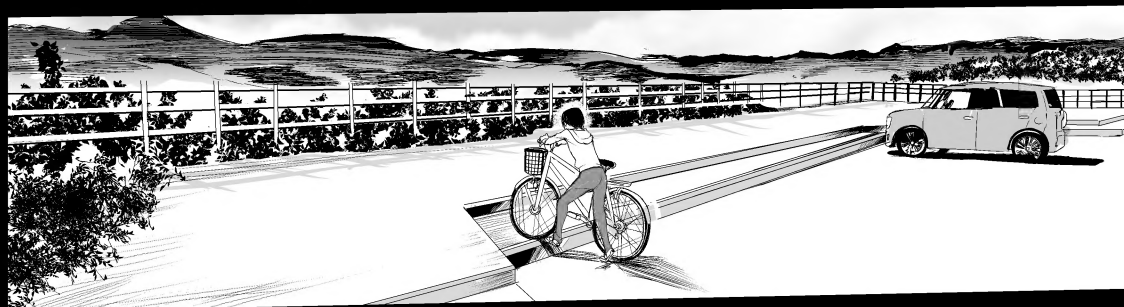
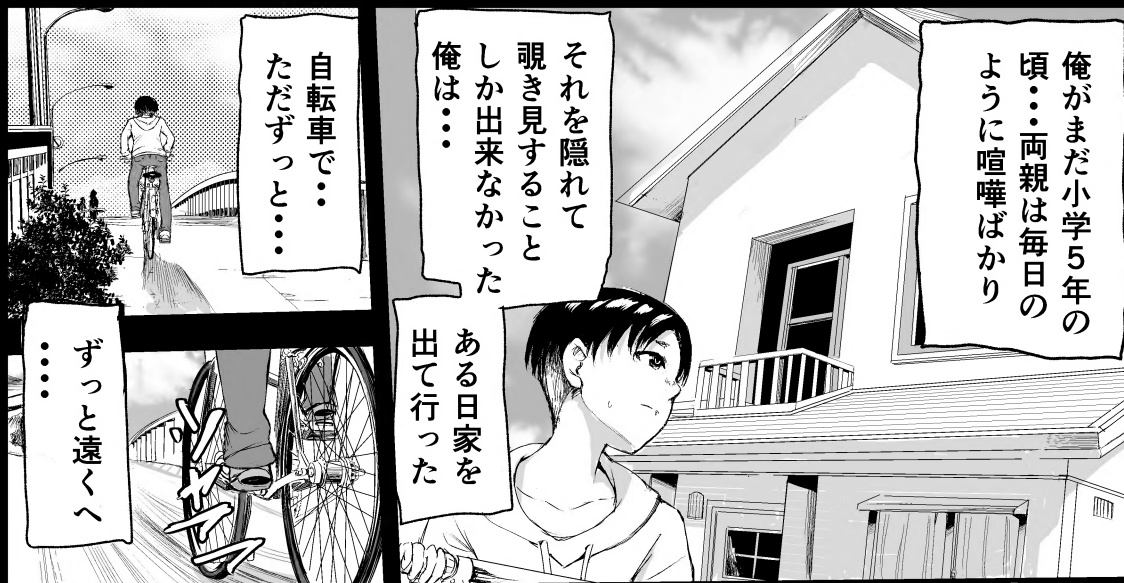
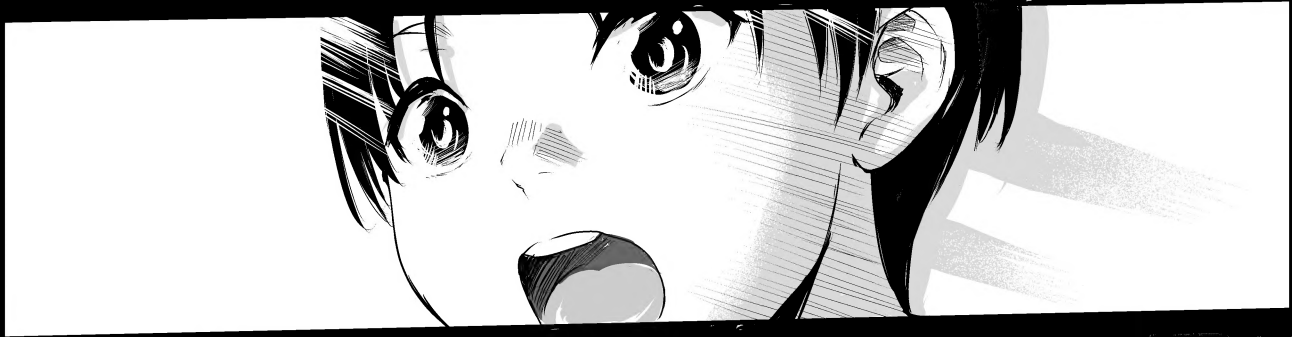
最初はそう・・・その地域特有の景色を見たかった

それだけだったんだ・・・・

俺がまだ小学5年の頃・・・両親は毎日のように喧嘩ばかり
それを隠れて覗き見することしか出来なかった俺は・・・
ある日家を出て行った
自転車で・・・ただずっと・・・
ずっと遠くへ・・・・
親に心配かけることで仲直りして欲しかった・・・
やがて心細くなって・・・
どこかの町が一望できる峠の駐車場で夜明けを迎えた時・・・
チチチ・・
そこで見た景色が・・・あまりにも神秘的で雄大だった

霧が峠を覆い
雲のように
広がっていた

その霧の流れは
圧倒的な躍動感で
谷を流れ落ちて
いく・・・

自分が空の
世界の住人に
なったかのように
・・・・・・・・

それからだった
秘境に対して
ロマンを抱くように
なったのは・・・

全国の秘境を
自分の目で足で
探索して焼き付け
たいと思うように
なった！

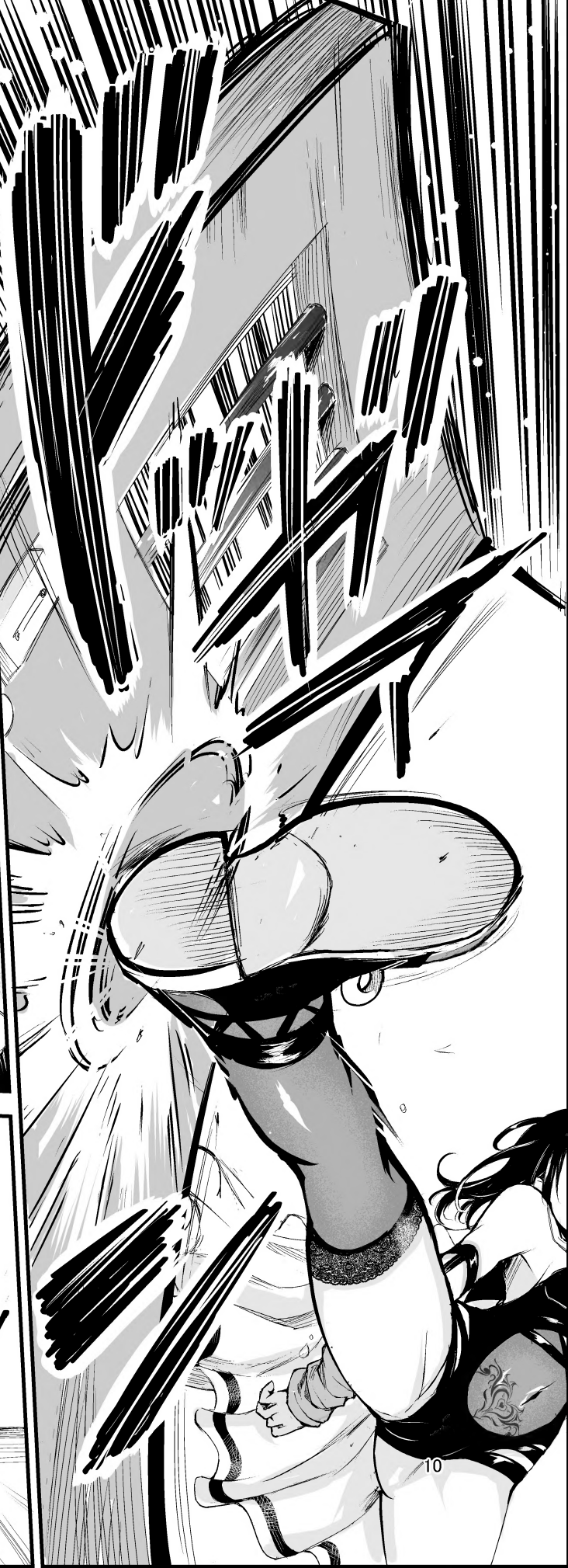
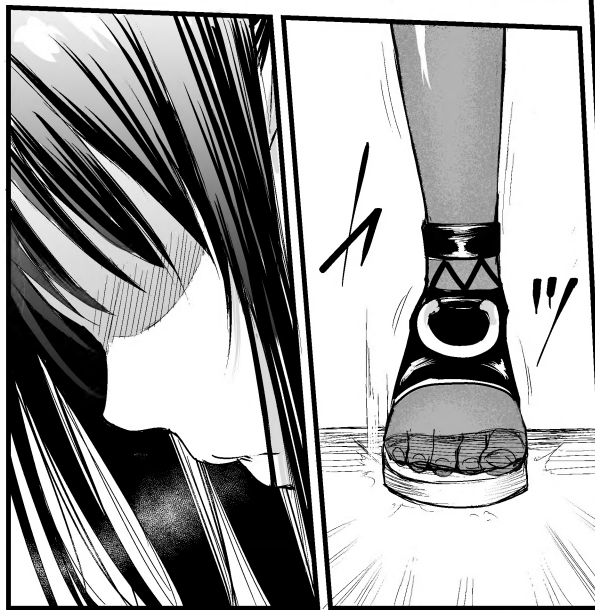
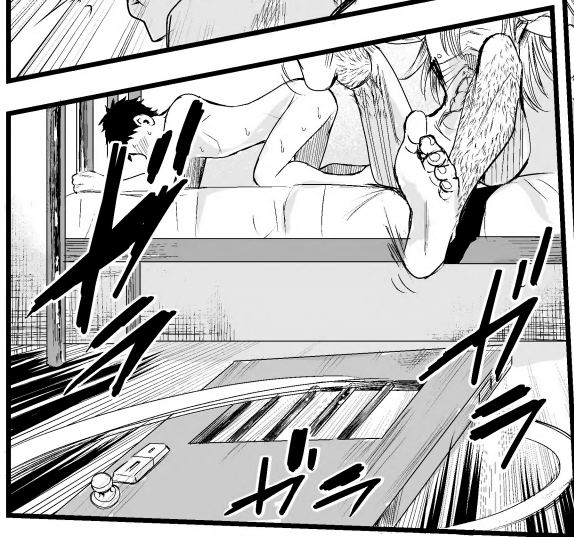
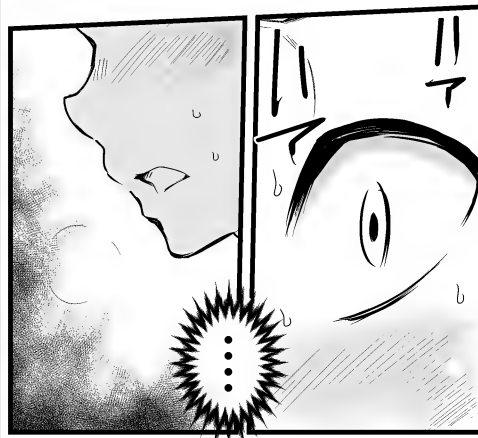
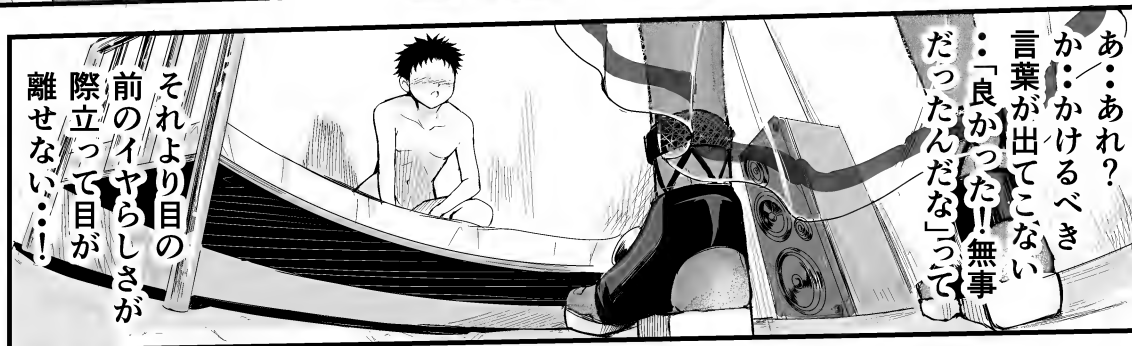
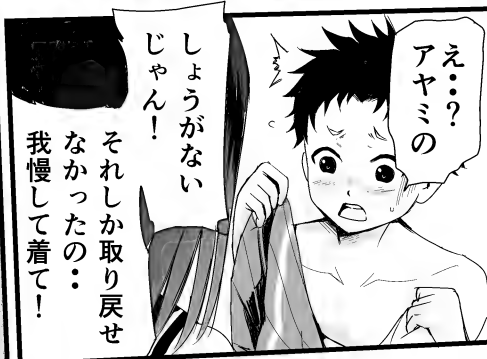
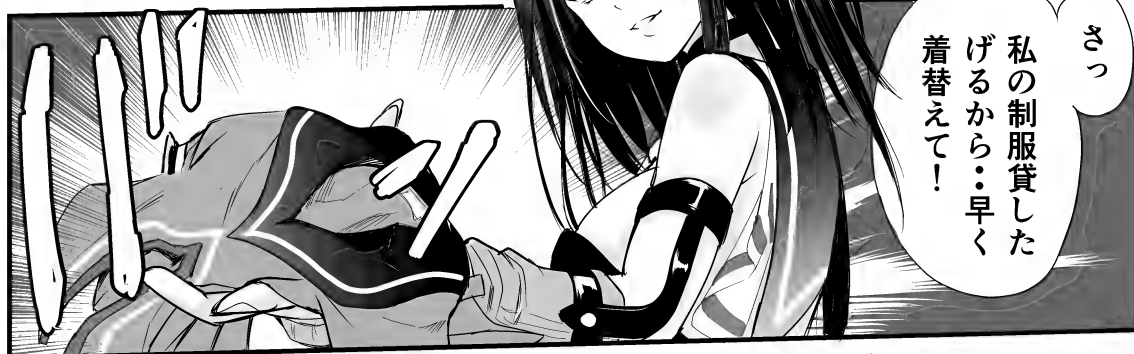
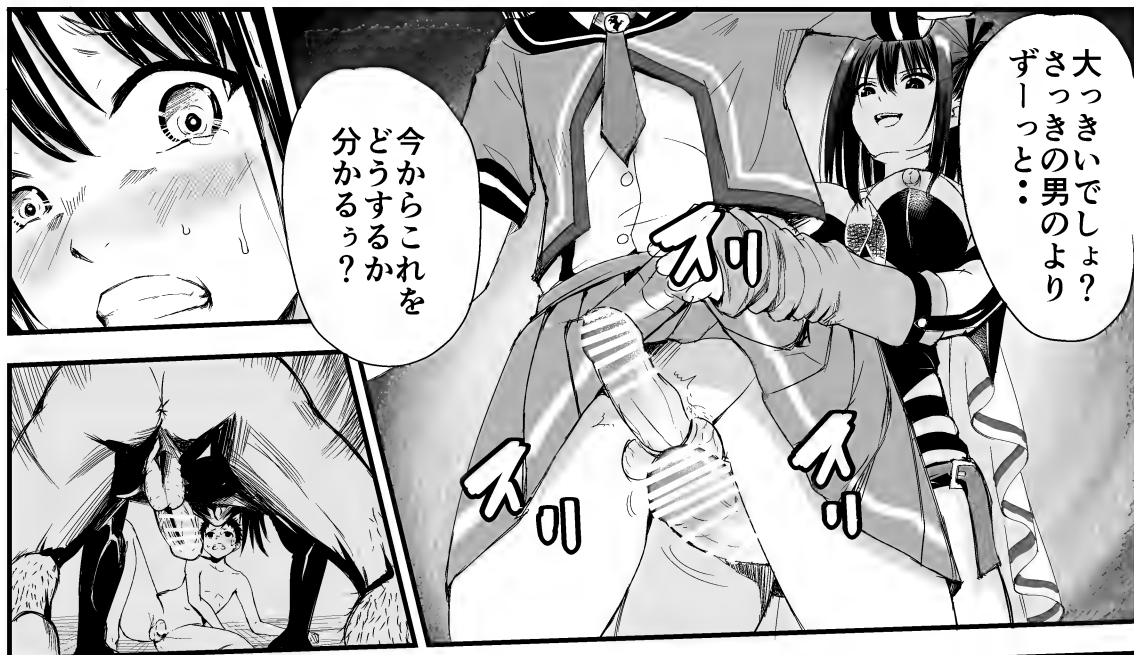
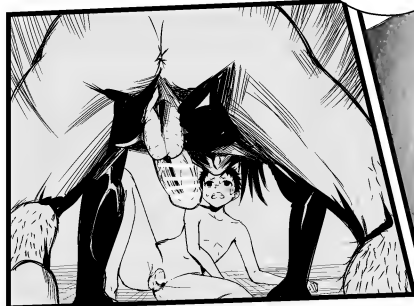
そう・・だから
こそアヤミとも
仲良くなれた

俺のロマンを
リスペクト
してくれる

最高の
パートナー！

ギ ガ ラ ラ

だから守りたい
んだ絶対に！
アヤミだけは

こんなことで
・・・・

フッ

ギ リ

こんなことで
屈するものか！

フッ

ドッカァ
ビクゥ
!?
!
ガラ
ガラ
ガラ

……！
ひっ…！
ヒイッ

ギッ
ダダ
ギィ
ギ…
……
キ…
……ドキ
ドッキ
ドッキン
な・・なんだ？
アヤミ・・なのか？
雰囲気がおかしい？
そ・・それにあの
格好は一体⁉
ドッ
ドッ
ドッ

ムチィ…

キュ

あ…あれ？
か…かけるべき
言葉が出てこない
…「良かった！無事
だったんだな」って
それより目の
前のイヤラしさが
際立って目が
離せない…！

い…一体何が
あったんだ？
まさか…
もう完全にあの
教祖の手に堕ちて
しまったんじゃ⁉

ハア
ハア
……

ニィ・・

ほらっ大丈夫？ナオト・・・

今のうちに脱出するよ？

え！

そんな姿じゃ外歩けない・・でしょ？

あっ！・・あぁ

ドキッ

ドキ

さっ私の制服貸したげるから・・早く着替えて！

ギクッ
！
ズ
ズ
！
え・・何でそんな
当たり前のように
言えるんだ？
ドドッ

なっ・・・
・・・・
サワァ・・

フフ・・・
すっごい！
似合うじゃんナオト
マジ女の子みたい
だよ？
・・・ちょ
あ・・アヤミ？

モゾ
なっ⁉
やっ止めろ・・・
・・て・・・
モゾ
グリグリ

おっおい
アヤミ！何だよ
ここここ・・・コレ⁉
い・・いつの間
に⁉
フフフ
ぐり
ぐり

洗脳？何言って
るの？
私はいたって
正気だよ？
ググイ
!

フフッ・・・
ゴメンネー
ナオト・・・
痛かった？
あ・・あが・・・
・・・・・・ッ
ふぁぁ
私ね・・もう
教祖様以外の
男とはエッチしない
って誓ったんだ
クス
だってこんな
包茎ヘタレ粗チン
・・入れてもムカ
つくだけで何も
感じないもん！
グリ グリ
あっ
うぐ
つっあぁ
・・・・・へぇ

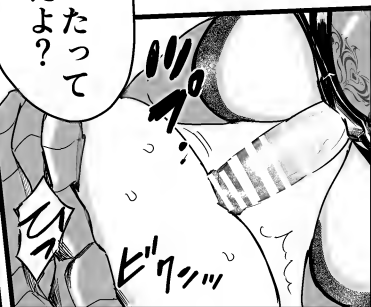
あっ

んっ

あはっ！
どうしたの
ナオト!?
口調が女の子
みたいになって
るよ？

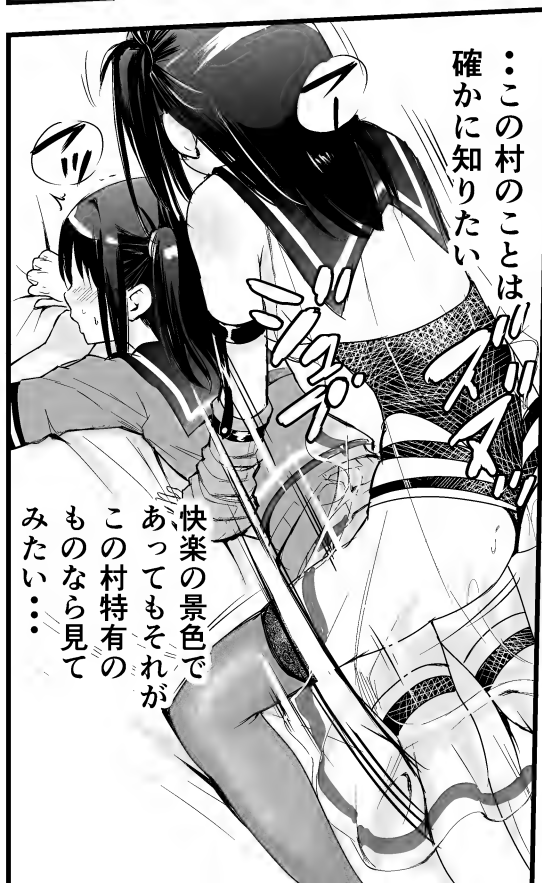
それにその
格好
まるで私を
犯してるみたい！

興奮しちゃう

！

ねぇナオト？私この村のこと色々分かったんだよ？

アヤミはそのために教祖に近づいた？あくまで・・・・・俺のために⁉

でもさ・・・その情報はよそ者には口外禁止なんだって・・・・

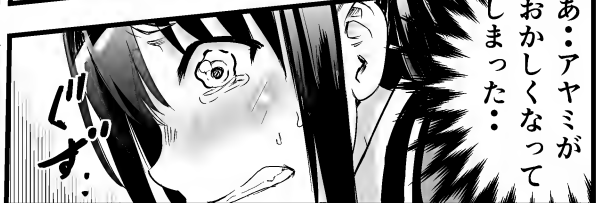
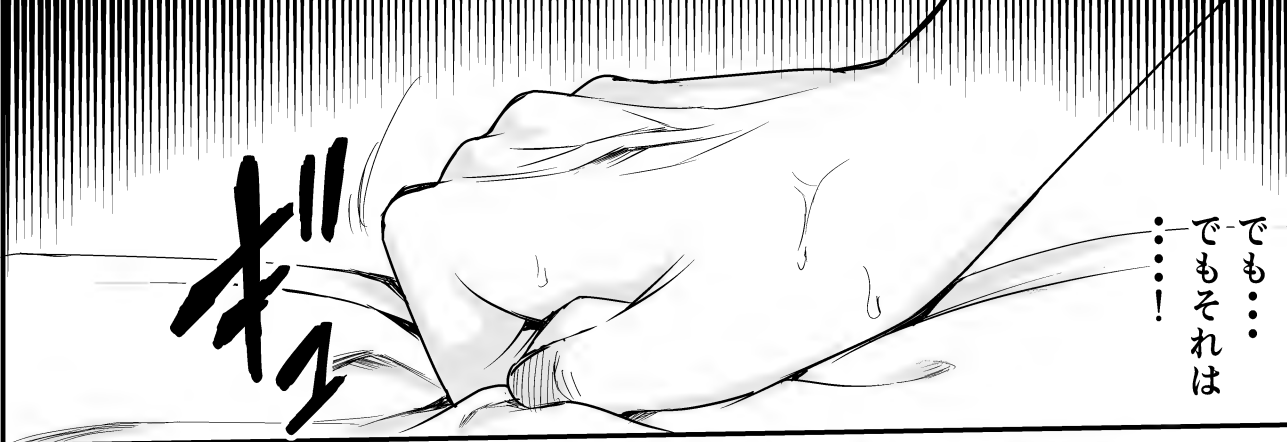
だからさぁ・・・・・・

ナオトも・・・
この村の一員に
なりなよ？

ギュ
でも・・・
でもそれは・・・・！

アヤミの身を犠牲にしていいものじゃない！
断る！

な・・何で？
フル
フル
？

私は・・ナオトのために・・身を挺して巫女にまでなったのに・・・？
ガタ
ズギ
は？
どうして・・
どうして？
ガタ
ガタ
ズギ

ああああああああ
ズチュ
!
本当は見たいんでしょ⁉
私が他の男に抱かれる姿を！
素直になりなよ！
う・・

な…何言ってそ…そんなこと…冗談でも御免だ！
またまたぁ本当にそう？
素直になっちゃえよ！
ナ・オ・ミちゃん
ハァ

ナオトは一般人としての視点
私が教祖様の側に仕える視点としてさ
長期滞在ってことで一か月くらい住んでみ？
満足したら村から出ればいいじゃん！
ブォォォ

あっ
あっ

あ…れ？

自分でもビックリするくらい女声が出ちゃう…？
不思議なくらい抵抗心が薄れていく…
気持ち…イイ…？？

気持ちいい
気持ちイイ
キモチイイ
キモチイイ

はぁあんん!
女装させられて
恋人に犯されて
・・・
おかしいのに
狂ってるのに・・
アヤミの臭いに
つつまれて
心地イイ・・・!
アハッこんな
ことされて感じ
てるの?ナオミ!
私の使用済み
制服とソックス
身に着けて
感じるなんて
ドヘンタイじゃん!
あ・・あぁ・・
もうダメダメ!
イッ・・イッちゃう
イッちゃう!
イッちゃえ
イッちゃえ!
大丈夫!ちゃんと
見ててあげるから!

ビッ
ピュウ
イグゥ
ビュルルルル
イグッイグー
イグウウウ

アハッすごっ いーっぱい出た！
無駄撃ち射精 おめでとー ナ・オ・ミ！
ニチイイイ
ズズ
ペチァ
あ・・そんな・・ アヤミに・・い・・イカされ・・
お・・おし お尻でぇぇ・・・
ジワ
ジワァアア
フフフフ
！
ハァ
ハァ

ゾク
ゾク
ゾク
ゾク

あ・・あぁ・・
来たぁ・・教祖様ぁ
また他の女の子と
エッチ・・し始めた
カチ
カチ
カチャ
ハァ
ハッ
教祖様の快感が
・・・子宮に・・
ハァ

子宮に伝わって
来る・・・っ！
ズズ
ズズ
ズズ
ムリ
ムリ
ムリ

ア・・アヤミ?・それ
・・な・・何だよ?
何入れてん
だよ・・・
ま・・・
まさか・・・

今の今まで
入れてたのか⁉
そんなブッとい
もの・・・⁉

だ・・・だって教祖様のせーえき・・・さっき出してもらったばかりだもん・・・
コポ
トプ
トプッ
コポ
完全に栓しないと出てきちゃうじゃん？
ほら見てぇー
ズル
ズルウ
私のお気に入り・・・教祖様のおちん○んと
ズズ
ズズ
同じサイズの・・・ディルド！
ポタ
ポタ

あああぁぁぁ❤
ぁぁーぁは❤❤
ゾクゾクゾク
ゾク

そうその顔！
その顔ぉぉ！
その顔だよ
ナオト！
ビッ

その顔が
見たかったの！
嫉妬にまみれて
私を必要として
いるその顔を！
ビビッ
サッ
ズブブ
ヌブブ
ピト

なっ
!?
クルクル
クルクル
ピチィッ

ま・・まさか
ちょ・・・ちょっと
待ってアヤミ・・・・！
い・・今イッた
ばっかり

う・・あぁぁ
な・・何だこの
圧迫感・・・!?
アッハぁ！やっぱ！
思った通り！
簡単にお尻入っ
ちゃったぁぁー！

ナオトの粗チンなら丁度よく入ると思ってたの！

まだ未開発だけど私のお尻の処女・・

ナオトにあげちゃった

あぁん教祖様！どうか・・・っ
どうか子宮にいっぱい注いで下さい！
また4日間・・この淫紋効果延長してぇーー！
・・・・
あぁぁぁ気持ちイイイイイーっ！お尻もおまん○も子宮も！

どう？ナオト！
素晴らしいでしょ？
教祖様が他の
女とエッチして
いる時でさえ・・・
その快感は
私の子宮に
伝わってくる！
この淫紋が私と
教祖様を繋いで
くれるの！
はっ
あっあっ
ミチィ
ヌルルル

あ…あっあぁぁぁダメダメだよぉぉぉぉぉ
アヤミ
早く…っコレヤバイ…早く抜いて…え！
えへへへダーメ！
ナオトがこの村の一員になるって言うまで快楽地獄は止まんないよ？
あんッ

ああッ・・イッちゃい
そう！教祖様ァッ！
もうイッちゃうのね⁉

お尻と言えど
今は俺とエッチ
してるのに・・・

アヤミの心は
ここにあらずだ
・・・・・・

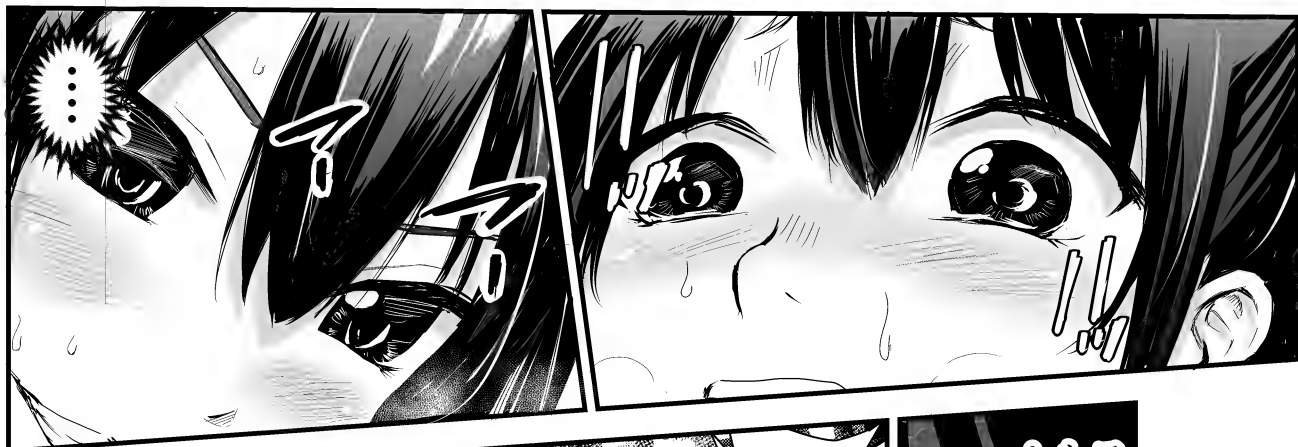
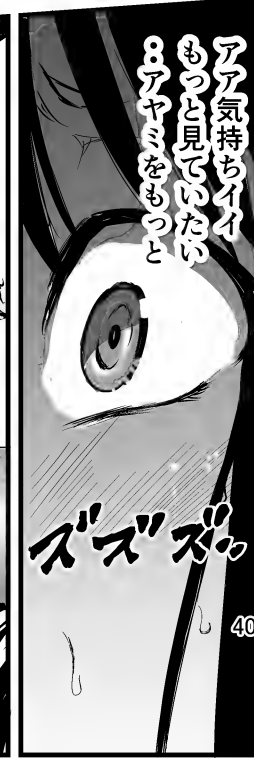
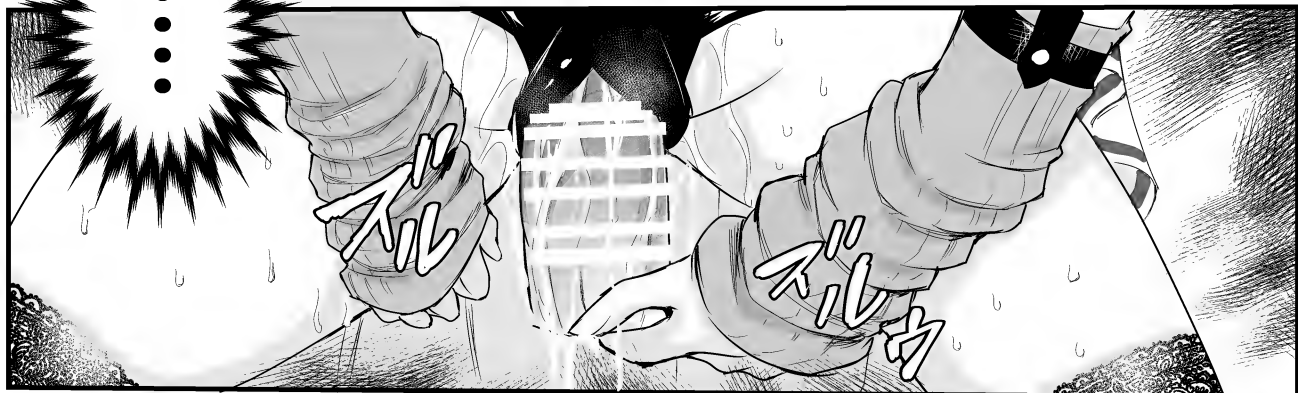
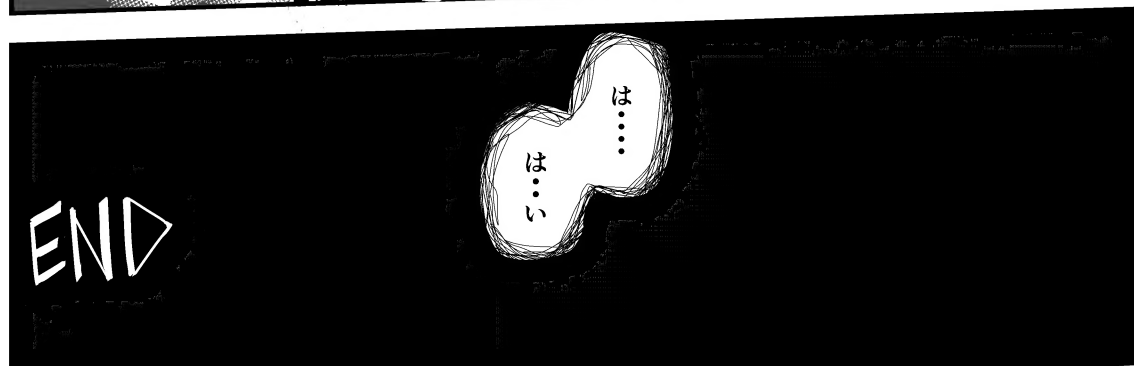
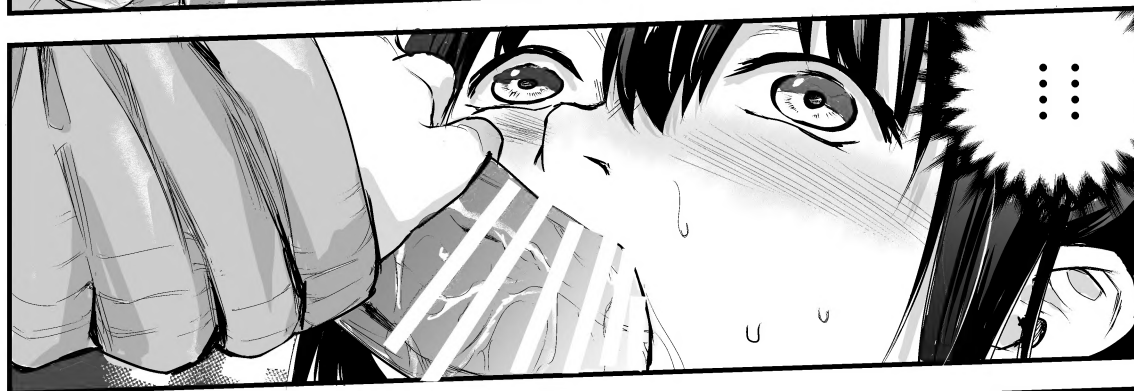
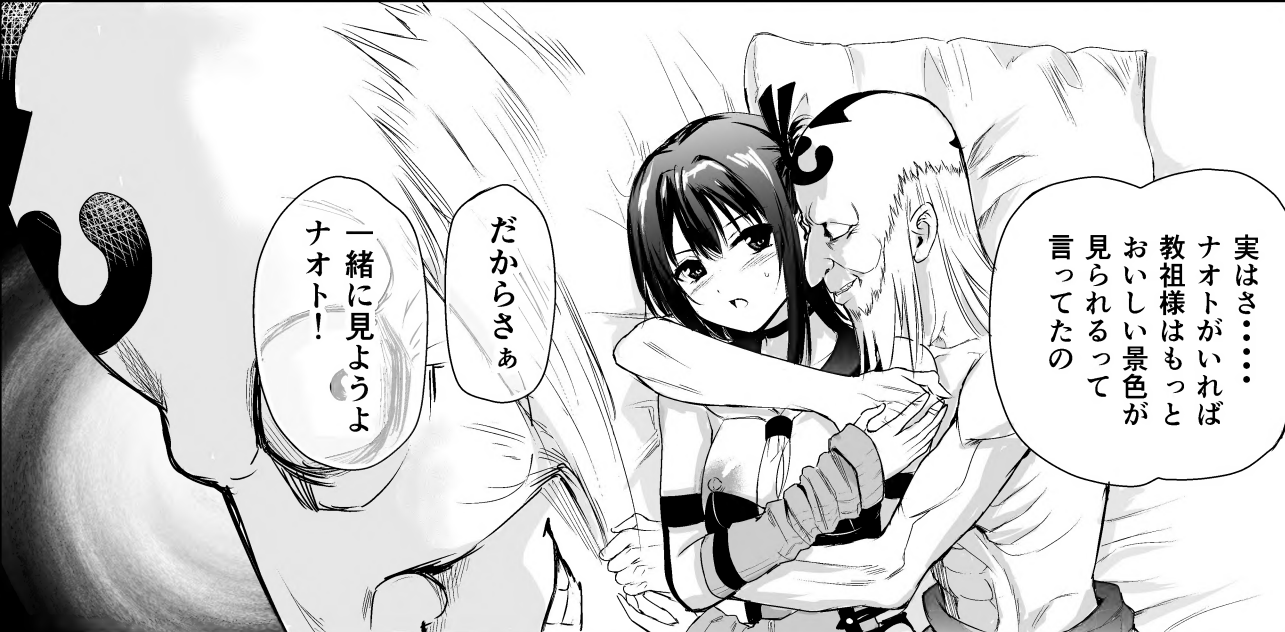
アヤミの身体はもう完全に・・・
ドキ
ドキ
教祖の物に変えられている・・・・
グググ
!
おやぁー?またちんちん膨らんできた?今更ぁー?
何に興奮してんのよ!ドヘンタイナオミちゃん!
寝取られて辛いはずなのに・・・・
ググッ
ググッ
悲しいはずなのに・・・なぜか目が離せなくなる
粗ちんのくせにどうしちゃったの?
恐ろしいくらいに・・・・
チュブ
チュブ

アヤミに夢中になってしまう！

イグウゥウッ♥
ドクドク
ブルブル
ビュルル
あっあ゛あ゛ イグイグ♥

ハァ
ズル
ズル
ハァ
ハァ
ズブブブ
…
ズル
ズルゥ
フッ
ハァ
ハァ
ズイ
ボロン
ニタァァ
ハァ
ハァ
ハアア

ククク
クククク
どう?私の
溜めてた精液と
おしっこのフル
コースは・・?
おいしい・・・?

実はさ……
ナオトがいれば
教祖様はもっと
おいしい景色が
見られるって
言ってたの
だからさぁ
一緒に見ようよ
ナオト!
私たちで奏でる
・・この村の
景色を・・・!
ね!
・・・・・・
・・・・・・・・
は・・・・
は・・い
END

あとがき

艶がり村第6話をご購入いただき誠に
ありがとうございます！
まずは締切が若干遅れてしまい申し訳ございません。
昨今のこの業界にピンチなことが続き、その対応で結構時間が
取られたりでした。(言い訳)

今回はナオト視点で、存分にアヤミにいじって
もらうコンセプトで攻めてみました。
物語もいよいよ終盤、毎回前回の自分を超えるものを目指し、
かつ飽きさせないものを心掛けております。
次回は今までで最強の興奮をお届けしたい、
すでに頭の中に構想は出来ているので、
最後まで見届けてくれるとありがたいです。
ではではまた次回お会いしましょうー！

Twitter id:nao3675

Pixiv id:29431100